

（イ）就職マッチング支援による帰還促進

アフガニスタン国内の関係団体・企業等との協力体制の下、帰還を希望する難民と求人側の就職マッチングを支援する。また、帰還・就職関連情報の提供や、帰還後の現地でのサポート体制を強化し、自発的な帰還の促進につなげる。



イラン人スタッフのアフガニスタン出張① カブール労働局にて、現地の雇用状況に関する情報収集を行った。イラン人スタッフ(左)と経済局のチーフ(右)。



イラン人スタッフのアフガニスタン出張② 就職情報サイトを運営する企業を訪問するイラン人スタッフ(左から 3 人目)。



イラン人スタッフのアフガニスタン出張③ カブールの大手電気通信サービス企業を訪問するイラン人スタッフ(左 2 名)。イランからの帰還難民に対する就職支援等について協議した。



イラン人スタッフのアフガニスタン出張④ カブールの私立大学を訪問するイラン人スタッフ(右 2 名)。帰還難民に対する教育支援についての意見交換や、アフガニスタンの高等教育に関する情報収集を行った。



イラン人スタッフのアフガニスタン出張⑤ 帰還して大学講師として働くセンターの卒業生(左)を訪問し、帰還後の生活環境に関する情報を収集するイラン人スタッフ(右 2 名)。



前出の就職情報サイト運営者をマシャッドに招き、大学生を対象にアフガニスタンの就職状況説明会を実施した。

（ロ）難民・貧困層支援プラットフォームの強化

イラン国内の関係団体と連携し、難民・貧困層支援のためのイベントや、セミナー・研修コース等の開催に協働で取り組む。また、新たなパートナーの開拓や、これまでの支援活動における優良事例の情報共有等に力を入れ、地域における難民・貧困層支援の活動基盤の強化を図る。



マシャッド市内の関係団体と連携して開催した難民の帰還支援イベント。2011 年 3 月と 7 月に開催し、いずれも 200 名を超える参加があり、多くの難民や関係団体との間で有用な帰還情報の共有が実現した。



帰還支援イベントでのパネルディスカッション。イラン内務省外国人移民管理局 (BAFIA) の担当者や UNHCR マシャッドの代表をゲストに迎え、難民を取り巻く様々な問題について意見を交換した。



2 回目の帰還支援イベントでは、インターネットのビデオ通話機能を利用してアフガニスタンと交信し、現地の協力団体が就職や教育に関する最新情報をレポートした。



UNHCR と協同で企画し、自己資金で開催した視覚障がい者のための PC コースの様子。障がいを持つ難民に対する支援のニーズは高い。



マシャッド市内で職業訓練校を運営する団体を訪問した際の様子。新規研修コースの開催にあたり、カリキュラムについて情報収集を行った他、講師紹介等の協力を依頼した。



マシャッド市内のチャリティー団体を訪問し、セミナーの告知をする日本人スタッフ (右 2 名)。他団体との情報交換や、難民の声を直接聞くことができる大切な機会。

（ハ）就職・帰還が可能な優秀な人材の育成

- ①アフガニスタンへの帰還や就職に際して有用なビジネススキルの研修コース（英語、会計、IT、ビジネス等）、②就職や帰還に関するセミナー（イラン・アフガニスタン両国からの講師招聘）、③センター及び企業等でのインターン研修、④PC スペースを利用した、PC 基礎の自習プログラム、⑤就職・帰還に関するカウンセリングサービス等を実施する。



ビジネススキル研修コースの様子① ビジネス英語コース



ビジネススキル研修コースの様子② 会計コース



ビジネススキル研修コースの様子③ Web デザインコース



ビジネススキル研修コースの様子④マーケティングコース



アフガニスタンからの招聘講師による、現地の高等教育に関するセミナーの様子。帰還経験を持ち現在は大学で英語講師を務める講師からイランとの教育制度の違いについて詳しい説明があった。



帰還後に大学で勤務するセンターの卒業生を講師として迎えた際のセミナーの様子。自身の帰還体験を交え、アフガニスタンの就職状況や現地の生活環境について説明。自分たちと同じ境遇からの成功例として、多くの参加者からの共感を得た。



起業や事業経営に関するビジネスセミナーの様子。起業による生計の向上というテーマは、就職の機会が限られている難民の高い関心を得た。



センターの受付で利用者の対応を行うインターン(中央)。カウンターでの様々な実務を通じて受付業務を学ぶ。



センターの利用者の登録情報をデータベースに入力するインターンたち。PC を利用しての庶務や顧客情報の取り扱いを実践の中から学ぶ。



セミナー講師(中央)と当日の講義内容について打合せをするインターンたち。告知から、会場の準備、レポートの作成まで、セミナーの開催を通じて多くの実務を経験する。



PC スペースを利用した、PC 基礎の自習プログラム。タイピングから Microsoft Office を中心とした基礎的なコンピューター技能を習得する。



イラン人スタッフ(左)によるカウンセリングの様子。一人一人のニーズや生活環境等を照らし合わせ、きめ細かい的確なアドバイスを送る。

（二）情報発信拠点としての機能拡充

①コミュニティペーパーの発行、②ホームページを利用した情報発信の強化等、これまでの取組の継続に加えて、より定期的な情報配信を目的とした③ニュースレターの発行を新たに追加し、情報発信機能の更なる充実を目指す。また、これらの活動においては、（イ）におけるアフガニスタンからの情報収集活動や、（ロ）の活動における協力団体とのネットワークを活かし、有用な情報を幅広く収集・発信する拠点機能としての強化に取り組む。



コミュニティペーパーの取材で、マシャッドのアフガニスタン領事館でパルバニ領事(右)にインタビューをするインターンたち(左 3 名)。



コミュニティペーパーのページデザインについてミーティング中のインターンたち。納得がいくまで、何度も修正を重ねる。



コミュニティペーパーの取材で、アフガン人コミュニティのテコンドー教室を訪問するインターンと日本人スタッフ。スポーツにおけるアフガン人の活躍を紹介。



センターのホームページの編集作業を進めるインターン(中央)に指導にあたるウェブデザインコースの講師(左)、日本人スタッフ(右)。